FPS

ファーストパーソンセックス

「えっこんな所でっ……出来るわけ無いでしょ!!」
「ききき…キスだなんて……」
「そんな顔しない!…嫌なわけじゃない!…わよ」
「はぁ…時と場所を選びなさいって言ってるの」
「放課後で人が少なくて…ばれないから?一瞬だから?」
「どうやら○○君…あたしの言ってる事が理解できないのかしら」

「ちょ…なっ」
「んっ…♥んっ…♥」
「何して…っ駄目って…」
「はぁ…っ♥んちゅ♥んちゅ♥」
「(…○○君こんな積極的に…出来るんだ)」
「(最近創設祭の引き継ぎやらで構ってあげられなかったから…)」
「(…仕様がないわね…今日は付き合ってあげますか)」

資材室
「資材室…ココだったら人来ないから…ね？」
「懐かしいでしょ？貴方がドジって二人で閉じ込められたわよね…」
「ん…何怯えてるのよ？」
「…！ふふっ酷い事でもされるって想像でもしてた？」
「ああでも教室での事は後で、た～っぷり灸を据えないとね」
「ふふ冗談よ…」
「絢辻さんに構って貰えて嬉しい!!とかないの？」
「な……っ!?」
「そ　そう…そんなあたしと二人きりになれて嬉しいんだ」

「○○君のもう…こんなに硬い」
ぺろっ…ぺちょぺろぺろ
「もう逃げたらちゃんと出来ないじゃない」
んちゅぬるぬるっ……
「相変わらず変な味ね…」
「？…何で○○君が謝るのよ」
「生物的に仕様が無い事でしょ？」
「それに…あたしこの味…嫌いじゃな…」
「！……っって何言わせるのよ――っ」
ぺろぺろぬりゅ♥ぬりゅ♥じゅぷ
じゅぷ♥じゅぷ♥じゅぷ♥じゅぷ♥

どぴゅっっ♥ぴゅ～～～

「…ってあれ？ドア開かない…」
「えっ…あたしが閉めたって？」
「ななな何で修理されてないのよ――ッ！」
「あたし言っといたのに…どうして」
「落ち着けって？女の子の一大事よ？」
「えっ…セックスで気を紛らそうって……」
「今あたしが悲鳴を上げれば助けが来るかもしれないわね」
「変態！この変態っ！や…ちょっと…」

「放課後…だったわね」
「ちょっとすれば創設祭実行委員会の娘があたしを探しに来るだろうし」
「乗ってあげる…その低俗な案に」
「…早く挿れなさいよ」
「えっもう一回？」
「早く挿れなさいよ？」
「あっ……〜っ変っっっ態!!!」
「……ばかっ」

ずぶっずぶぶぶぶ♥
「んっ…♥(や…これっ!?尿意がおさまるどころかッ)」
ぬっぷっ♥ぬっぷっ♥ぬっぷ♥
「あっっ…んん♥んっ♥(逆に抑えられないじゃない)」
「あっ♥ふっ…んっ♥んっ♥(やだっ声を抑えようとすると…出ちゃう)」
ぬちゅ♥にゅちにちっ♥ぬちゅ♥
「あああっ♥あっ♥あっ♥(声が抑えられないじゃないっ!!!)」
コンコンっ!
「絢辻先輩~ここに居ますかー?創設祭実行委員の者ですがー」
「っ…!?」

「あ…っと…どうしたのかしら？」
生徒A「良かった～前年度予算案の用紙って何処に有りますか？」
「それなら…実行委員会室の青いカラーボックスの黒いファイルに入ってるわね」
生徒A「あっ！そうでした～すみません」
「いいのよ、大変だと思うけど体は壊さないようにね」
生徒A「あ…有難うございます！絢辻先輩それでは失礼しますっ」
「あっ!!待って…」
生徒A「…？」

「ココを開けっ…」
ぬぶぬぶぶぶうっぶぶぶぶ♥
「……んぅッ――?!」
「(ちょ…ちょっと何考えてんのよ!?)」
「(絢辻さんが誘って…た?そんなわけ無いでしょっ!!)」
生徒A「絢辻…先輩?どうしたんですか?」
ぬちゅ♥ぬちゅ♥ぬちゅ♥
「なん…っでも無い…の…んっ♥」
生徒A「大丈夫ですか?辛そうですよ…」
じゅぶじゅぽじゅぽじゅっぽ♥
「本当にっっ…なんでも…無っんはッ♥」

生徒A「そういえば…資材室で何をしてるんです？」
ぬっぽぬっぽぬっぽ♥ぬっぽ♥
「皆がっ…んっ利用しやすい…ようにっ棚整理いっ…してるだけよ」
生徒A「えっ…先輩にそんな事させるわけにはっ…」
「良いの！…あっいや大丈夫よ…それよりちょっとぉ…んっ♥」
「私風邪っぽくて…んっんっ♥うっすと悪いから…ね？」
生徒A「絢辻先輩…私、絢辻先輩が手掛けた創設祭みたいに絶対成功させますから！」
「楽しみに……っん♥してるわね」

「ばかっ…！変態〜〜〜っ」
「ばれたらっ♥んっんっ♥どうするつも…りっだったら♥」
にゅぷにゅぷにゅぷ♥
「はぐらかさない……っで♥」
ぱん♥ぱん♥ぱんっ♥
「あぁっ、ん♥あ、ん♥（もう声抑えなくて良いんだ）」
ぱんっぱんっぱんっ♥ぱんっ♥
「あっ、あっ、あっ♥」
ぱん♥ぱん♥ぱんっ♥

どぴゅるるう――♥ぴゅっ♥ぴゅっ♥ぴゅ～～♥
「んっっ…はッ…あっ♥」
はぁ♥はぁ♥はぁ♥はぁ♥
「すごい量…二回目なのに…」
「大丈夫な日だけど…デキちゃうかもね…♥」
「ふふ…今頃慌てて…情けないわね」
「あたしは良いんだけどな…このまま…」
「……冗談よ」
[redacted]

「ねぇ…○○君の低俗で最低な案だったけど…」
「多少なり気が紛れてたみたい…」
「う……っ」
「そうよ…思い出したら…また(尿意が…)」
「えっ?…何て?」

「の…飲むって……本気？」
「う…そんな意気込まれても…」
「出るわけ無いでしょ！」
「なんでそんな必死なのよ…」
くりっ♥くり♥
「ちょっ…と♥今そんなとこ触られたら…っ」

「あっ…♥」
ちょろ♥ちょろろろろろろろろろろろろろろ♥
「や…○○君ごめんなさいっ…んっ止まらない」
ちょろろろろろろろろろろろろろ♥♥♥♥
「本当に…飲んで？」
ちょろろろろろろろろろろろろろろ♥
「(我慢してたせいで…長い恥ずかしい)」

「だ…大丈夫○○君!?」
「良かった…もう無茶しないで…」
「えっ…?」
「絢辻さんのおしっこは程よい酸味と苦味…」
「それに絢辻さんに暖められた程よい温度…」
「恥ずかしがってる絢辻さんは最高だった…ね…ですってぇ~?」
「○　○　君~~~~~~~~ッ」

「本当あたし達の関係って変わらないわね」
「えっ？出られないのにあたしが何で落ち着いてるのかって？」
「ばかね…守衛さんが生徒が残っていないか見回りに来るでしょ」
「待ってれば出られるわよ」
「それまでそうね…勉強でもみてあげ…」
「…っまだおさまらないの？」
「仕様が無いわね…こうなったら」
「とことん絞り出してやるんだから…覚悟なさい♥」

乱視と君と。